

2016年（平成28年） 8月26日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

8/4~8/10のNYMEX・WTIは、41.71~43.02ドルの範囲で推移したが、8日にはOPEC(石油輸出国機構)の非公式会合の9月下旬開催の報道を受けて、一時上昇した。

8月11日は、OPEC会合への前向き発言やIEA月報の需給均衡見通し等により、3日振りに反発した。9月限は、前日比1.78ドル高の43.49ドルとなった。週末12日は続伸し、前日比1.00ドル高の44.49ドルで終了した。週明け15日は、ロシアがOPEC産油国と協議中との報道等もあり、前週末比1.25ドル高の45.74ドルとなった。16日は、産油国による生産調整への期待から値上がりし、前日比0.84ドル高の46.58ドルだった。17日は、EIA週間統計の予想を上回る在庫減少の報道で続伸、9月限は前日比0.21ドル高の46.79ドルで終了した。

18日は、産油国の生産調整への期待で続伸し、前日比1.43ドル高の48.22ドルで終了した。週末19日は、産油国による増産凍結への期待が高まり7営業日続騰した。9月限は前日比0.30ドル高の48.52ドルだった。週明け22日は、米国稼働リグ数の8週連続増加など供給過剰懸念を背景に8営業日振りに反落し、前日比1.47ドル安の47.05ドルだった。23日は、イランが産油国協調に同調するととの報道から反発した。この日から中心限月となった10月限は前日比0.69ドル高の48.10ドルで終了した。24日は、EIA週間統計で予想に反し米原油在庫が増加、ガソリン在庫も横ばいだったことから反落した。10月限終値は前日比1.33ドル安の46.77ドルだった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(9月渡し)は、前週39.90~41.90ドルの範囲でやや回復した。12日は43.00ドル、15日は44.10ドル、16日は45.00ドル、17日は46.10ドル、18日は47.00ドル、19日は48.20ドル、22日は

46.90ドル、23日は45.80ドル、24日は45.90ドルだった。

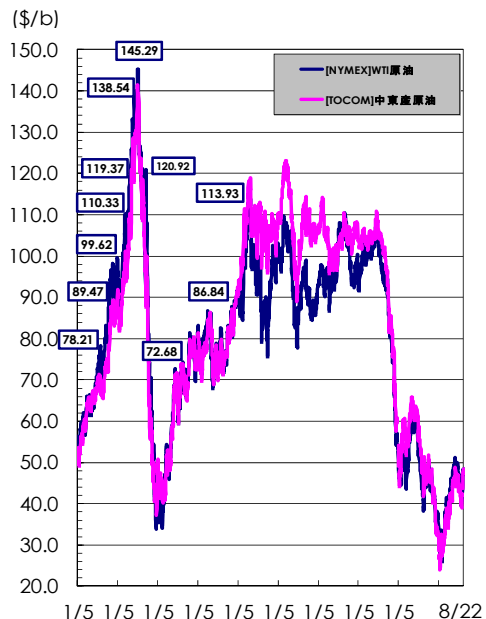
為替は、前週101.25~102.40円の範囲で推移した。12日は102.21円、15日は101.47円、16日は101.13円、17日は100.68円、18日は99.78円、19日は100.43円、22日は100.63円、23日は100.16円、24日は100.39円と100円を挟み小刻みに推移した。

財務省が18日発表した貿易統計速報(旬間ベース)によると、7月下旬の原油輸入平均CIF価格は、前旬比347円高の30,940円/kl。ドル建てでは47.64ドルで前旬比0.01ドル高。為替レートは1ドル/103.25円。同日発表した貿易統計速報(月間ベース)によると、7月の原油輸入平均CIF価格は、前月比78円高の30,939円。ドル建てでは47.72ドルで前旬比2.48ドル高。為替レートは1ドル/103.08円。

主要元売会社の8月第5週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は、据え置きから3.0円の値上げに分かれた。原油は値上がりし、為替の円高でやや相殺されたものの、原油コストは値上がりした。

そのような中で、8月15日時点の小売価格は、ガソリンが0.3円値下がりの121.7円、軽油は0.2円値下がりの102.0円、灯油は0.1円値下がりの63.8円だった。また8月22日時点の小売価格は、ガソリンが横ばいの121.7円、軽油も横ばいの102.0円、灯油は0.1円値上がりの63.9円だった。ガソリンは8週振りに値下がり止まり、軽油は3週振りに値下がり止まり、灯油は9週振りの値上がりだった。この週の原油コストは値上がり、元売の卸価格は据え置きから1.5円の値上げに分かれた。

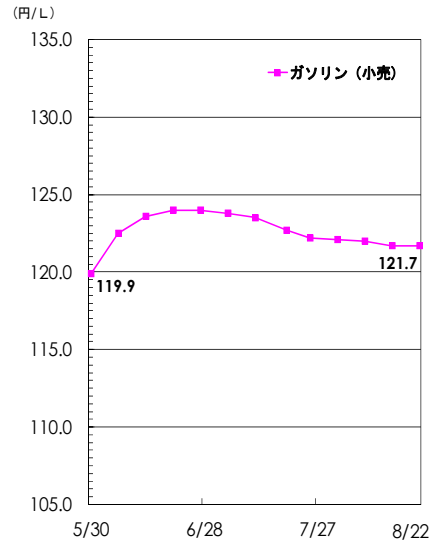
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	8/14 ~ 8/20	3,755 ▼ -74	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	88.4 ▼ -1.7	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	8/20	14,634 ▼ -1,100	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	8/22	47.32 ▲ 2.83	▲ 4.7
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	8/22	47.05 ▲ 1.31	▲ 8.8
	原油CIF単価 (\$/bbl)	7月下旬	47.64 ▲ 0.01	▼ -16.14
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	30,940 ▲ 347	▼ -18,422
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	103.25 ▼ -1.15	▲ 19.79
	外国為替TTSレート (¥/\$)	8/22	101.63 ▲ 0.84	▲ 21.09



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/14 ~ 8/20	1,142 ▼ -7	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	1,052 ▼ -173	▲ -	
	輸出	"	67 ▲ 62	▲ -	
	在庫	8/20	1,592 ▲ 23	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/16 ~ 8/22	41.7 ▲ 1.3	▼ -8.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/16 ~ 8/22	41.3 ▲ 1.5	▼ -9.7
		(TOCOM/中部)	8/22	41.6 ▲ 2.1	▼ -5.9
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/22	121.7 ➡ 0.0	▼ -15.0	

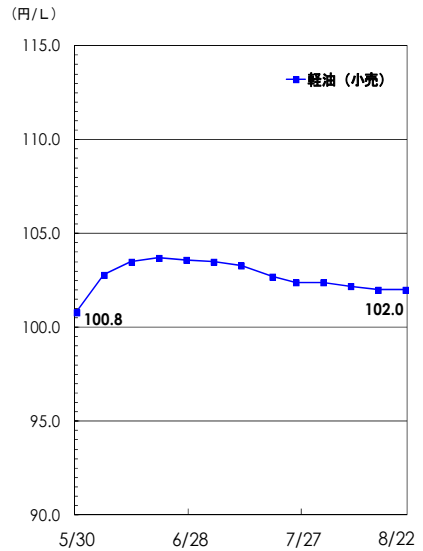
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

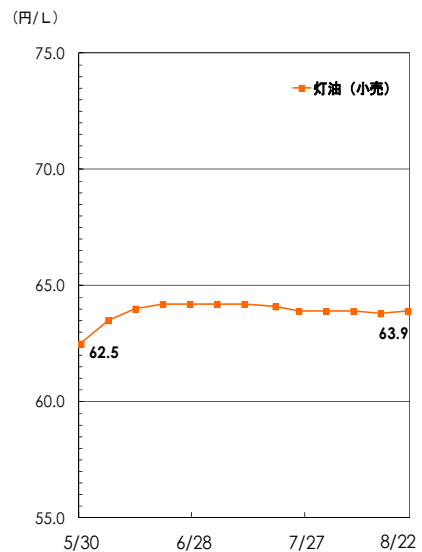
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/14 ~ 8/20	901 ▲ 18	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	486 ▼ -82	▼ -	
	輸出	"	185 ▲ 32	▼ -	
	在庫	8/20	1,917 ▲ 230	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/16 ~ 8/22	38.2 ▲ 0.1	▼ -7.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/16 ~ 8/22	39.5 ▲ 2.1	▼ -6.9
		(TOCOM/中部)	8/22	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/22	102.0 ➡ 0.0	▼ -13.8	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/14 ~ 8/20	221 ▲ 43	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	68 ▼ -19	▼ -	
	輸出	"	17 ▼ -11	▲ -	
	在庫	8/20	2,447 ▲ 135	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/16 ~ 8/22	36.3 ▲ 0.1	▼ -10.4	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/16 ~ 8/22	38.3 ▲ 1.9	▼ -8.9
		(TOCOM/中部)	8/22	37.4 ▲ 0.4	▼ -10.1
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/22	63.9 ▲ 0.1	▼ -18.3	



■ 関連情報

1 海外/原油

24日のNYMEX市場のWTI原油は、米エネルギー情報局(EIA)の発表した週間統計で、米国原油在庫が市場予想(50万バレル減)に反して増加(250万バレル)、ガソリン在庫も市場予想(120万バレル減)に反し横ばいだったことから、供給過剰懸念が再燃し反落した。ドル高の進行も、値下がり要因となった。

取引の中心限月である10月限の終値は、前日比1.33ドル安の46.77ドル、11月限の終値は、前日比1.27ドル安の1バレル47.48ドルだった。

EIAによると、8月15日時点のガソリンの小売価格は全米平均で前週比0.1セント値下りりの1ガロン2.149ドル(58.1円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比0.6セント値下りりの2.310ドル(62.5円/ℓ)。また22日時点のガソリンの小売価格は全米平均で前週比4.4セント値上りりの1ガロン2.193ドル(58.8円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比6.0セント値上りりの2.370ドル(63.6円/ℓ)。ガソリンは10週振りの値上り、軽油は8週振りの値上り。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、8月14日～8月20日に休止したトッパー能力は、3.0万バレル/日と前週に対して横這い。(全処理能力は381.7万バレル/日)。

原油処理量は375.5万klと、前週に比べ7.4万kl減少。前年に対しては14.9万klの減少。トッパー稼働率は88.4%と前週に対して1.7ポイントの減少、前年に対しては1.1ポイントの減少となった。

生産は前週に比べて灯油、軽油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/0.6%減、ジェット/29.2%減、灯油/24.0%増、軽油/2.1%増、A重油/0.9%減、C重油/14.5%減。今週のC重油の輸入は4.2万kl(前週比6.6万kl減)。軽油の輸出は18.5万kl(前週比3.2万kl増)。

出荷(販売量)は、前週比ではA重油のみが増加し、その他の油種で減少した。前年比ではガソリンのみが増加し、その他の油種で減少した。原油価格が値上がりし、小売価格は8週振りに値下がり止まったが、ガソリンの出荷は105.2万kl(対前週14.1%減)と3週振りに前週比で減少、4週振りに前年比で増加となり、8週連続で100万klを超えた。

ジェット7.2万kl(対前週32.8%減)、灯油6.8万kl(対前週21.9%減)、軽油48.6万kl(対前週14.5%減)、A重油16.1万kl(対前週11.5%増)、C重油25.0万kl(対前週10.8%減)。

(単位：千KL)

	今週 (8/14 ~ 8/20)	前週 (8/7 ~ 8/13)	前週比
ガソリン	1,052	1,225	▼ -173 (-14%)
ジェット燃料	72	108	▼ -36 (-33%)
灯油	68	87	▼ -19 (-22%)
軽油	486	568	▼ -82 (-14%)
A重油	161	144	▲ 17 (12%)
C重油	250	280	▼ -30 (-11%)
合計	2,089	2,412	▼ -323 (-13%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

8月20日時点の在庫は全油種で積み増しとなった。前年に対してはガソリン、C重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。

ガソリンは159.2万kl、前週差2.3万kl増。前年に対しては6.6万kl少ない。

灯油は244.7万kl、前週差13.5万kl増。前年に対しては12.2万kl多い。

軽油は191.7万kl、前週差23.0万kl増。前年に対しては13.0万kl多い。

A重油は79.0万kl、前週差3.2万kl増。前年に対しては1.5万kl多い。

C重油は203.3万kl、前週差9.0万kl増。前年に対しては21.3万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (8/20)	前週 (8/13)	前週比
ガソリン	1,592	1,569	▲ 23 (1%)
ジェット燃料	1,132	1,129	▲ 3 (0%)
灯油	2,447	2,312	▲ 135 (6%)
軽油	1,917	1,687	▲ 230 (14%)
A重油	790	758	▲ 32 (4%)
C重油	2,033	1,943	▲ 90 (5%)
合計	9,911	9,398	▲ 513 (5.5%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

8月9日から8月22日までの原油コストは、原油価格は値上がり、為替レートは前半円安、後半円高だったが、原油価格の値上がりの影響のほうが大きく、原油コストは値上がりが見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン94~96円台、軽油38円台、灯油36円台で後半やや強含んだ。海上スポット価格は、ガソリン94~95円台、軽油38~40円台、灯油34~35円台でこちらはほぼ横ばいである。先物価格はガソリン92~95円台、軽油36~40円台、灯油35~39円台でこちらもやや値上がりである。原油コストの値上がり影響した。この間の元売の卸価格はガソリンで2.0円から3.5円の値上がりだった。

EMGマーケティングは18日、20日以降出荷分の陸上外販スポット価格について、A重油は1.0円、その他の油種は2.0円引き上げる旨を通知した。また、ガソリンは24日付でさらに1.0円値上げされる。

また25日には、27日以降出荷分の陸上外販スポット価格について、すべての油種を1.0円、ガソリンは9月1日からさらに1.0円引き上げる旨を通知した。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

原油価格の値上がりによる原油コストの上昇により、製品スポット市況は、一般的に堅調に推移した。週間のガソリン販売量は、8週連続で100万klを超え好調である。

8月第5週(8月25日~8月31日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(8月16日~8月22日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値、カッコ内は8月9日~15日分)は、ガソリンは1.3円(▲0.3円)、灯油は0.1円(▲0.9円)、軽油は0.1円(▲0.8円)の値上がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.5円(+0.1円)、灯油は0.6円(+0.1円)の値上がり、軽油は0.6円(▲0.6円)の値下がり、先物価格は、ガソリンが1.5円(+1.2円)、灯油が1.9円(+0.8円)、軽油が2.1(+1.3円)円の値上がりだった。原油コストの値上がりに伴い、一般的に値上がりとなった。

8月第4週の大手元売の卸価格は、据え置きから1.5円の値上がりだった。また8月第5週は、各社とも据え置き~3.0円の値上がりだった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/%)		
[陸上ローリー4地区平均]		今週 (8/16 ~ 8/22)	前週 (8/9 ~ 8/15)	前週比
スポット価格	レギュラー	41.7	40.4	▲ 1.3
	灯油	36.3	36.2	▲ 0.1
	軽油	38.2	38.1	▲ 0.1
(TOCOM)		(単位: 円/%)		
[期近物/終値] [平均]		今週 (8/16 ~ 8/22)	前週 (8/9 ~ 8/15)	前週比
先物価格	レギュラー	41.3	39.8	▲ 1.5
	灯油	38.3	36.4	▲ 1.9
	軽油	39.5	37.4	▲ 2.1

※上記価格は税抜き価格

参考値 (8/16~8/22実績値)		(単位: 円/%)	
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 1.3	▲ 1.5	▲ 1.4
灯油	▲ 0.1	▲ 1.9	▲ 1.0
軽油	▲ 0.1	▲ 2.1	▲ 1.1
A重油	▲ 0.2		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バーージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

8月15日時点におけるSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.3円値下がりの121.7円、軽油は前週比0.2円値下がりの102.0円、灯油は0.1円値下がりの63.8円だった。都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは5都県、横ばいは7県、値下がり35道府県だった。

また、8月22日時点におけるSS店頭価格は、ガソリンが前週比横ばいの121.7円、軽油は前週比横ばいの102.0円、灯油は0.1円値上がりの63.9円だった。都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは18道府県、横ばいは8都県、値下がり21県だった。ガソリンは8週振りに、軽油も3週振りに

下がり止まり、灯油は9週振りの値上がりだった。

都道府県別のガソリンの全国最安値は、15日は埼玉県(前週比0.9円安)の116.2円、最高値は長崎県(同1.5円安)の130.2円だった。22日の全国最安値は、埼玉県(前週比0.3円高)の116.5円、最高値は長崎県(同0.6円高)の130.8円だった。

原油コストは値上がりで、8週振りに小売価格の値下がり止まった。原油価格の値上がり円高を上回り、原油コストは値上がりし、各種石油製品市況も値上がりしていることから、次週の小売価格は、値上りが予想される。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/%)				
		今週 (8/22)	前週 (8/15)	前週比		
小売価格	レギュラー	121.7	121.7	➡ 0.0		
	灯油	63.9	63.8	▲ 0.1		
	軽油	102.0	102.0	➡ 0.0		
					直近高値	
					08/8/4	185.1
					08/8/11	132.1
					08/8/4	167.4

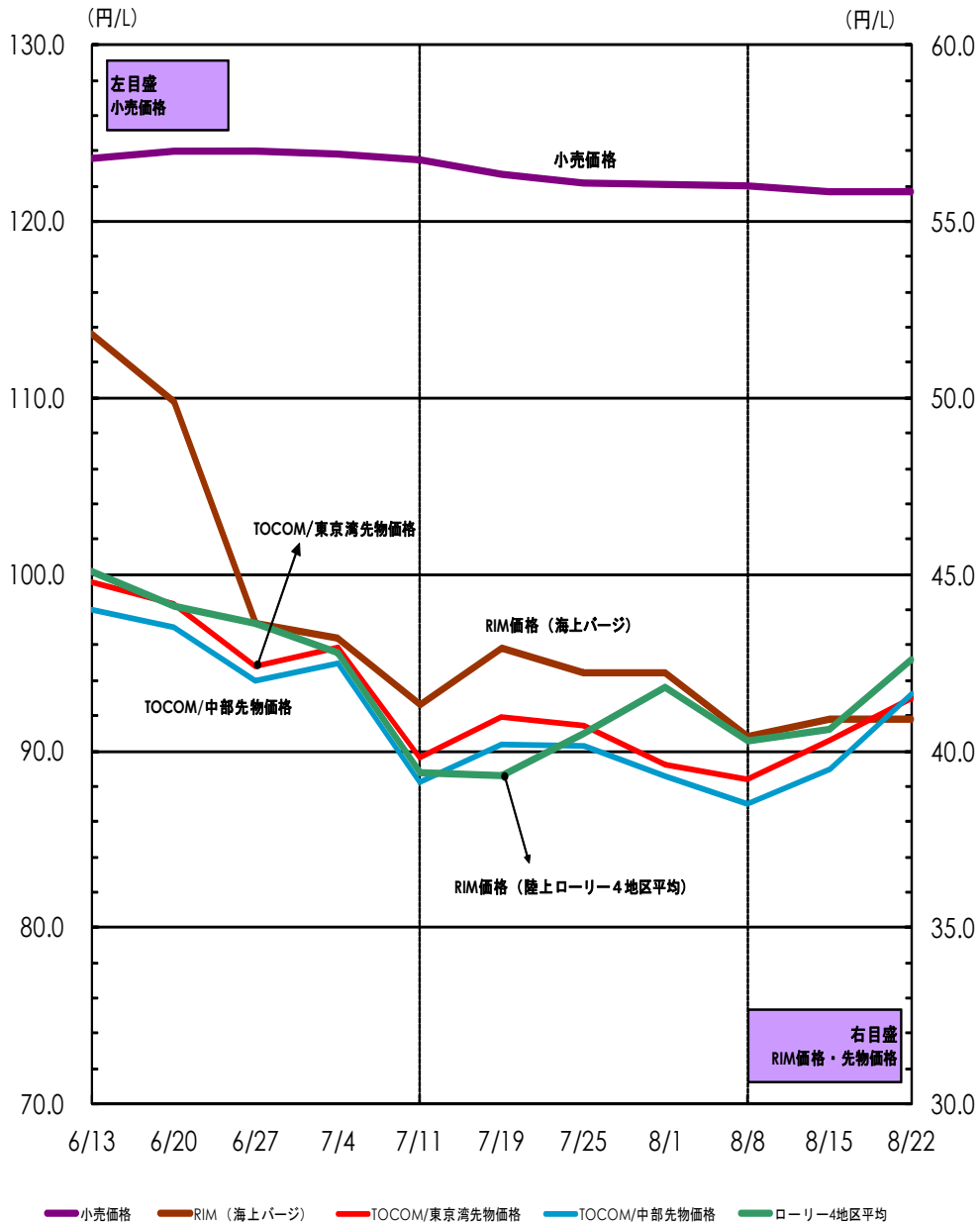
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2016/6/13 ~ 2016/8/22)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2016第21号)の公表は、9/2(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成28年3月末現在)は、8月3日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週

(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。